

第102回
同志社グリーンクラブ
定期演奏会

♣ GleeClub

2006年12月9日(土) 開演 17:00
♪ 京都コンサートホール大ホール

Doshisha College Song

Words by W. M. Vories
Music by Carl Wilhelm

One Purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!



御挨拶

本日はお忙しい中、同志社グリークラブ第102回定期演奏会にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。今年もここ地元京都の地におきまして、定期演奏会を盛大に開催できますことを部員一同心より感謝致しております。

さて、一昨年我が団は創立100周年という一つの大きな節目を迎えました。また、昨年は同志社グリークラブ次の100年へ向けて、新たな一歩を踏み出した一年でした。そして今年、昨年先輩方が示して下さいました方向性、今まで諸先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統を胸に、数々の試行錯誤を経て今まで歩んで参りました。途中様々な紆余曲折はありましたが、今日ここに至るまでの成果を皆様にお見せできればと思います。

ところで、音楽は瞬間の芸術であると言われる。CDやDVDを使えば後日演奏会を振り返ることはできますが、歌い手と聞き手の間に共有されるその場の一体感・臨場感は二度と体験することはできません。現代という時代は、合理性と効率性の時代であります。本日のように、僅か数時間の演奏のために膨大な時間を費やし、時に学業・アルバイトを犠牲にしてまで一つのことにながむしゃらに打ち込むというのは時代遅れと思われるかもしれませんが、しかし、本日皆様と共有する感動と皆様の温かい拍手は、瞬間でありながら永遠に我々の胸に残ります。古来より日本には、桜や花火に見られるように、美しく儂いものに心惹かれる習慣があるように思われます。一瞬だからこそ強く、そして眩しく放たれる輝きをお楽しみいただけたら幸いです。

最後になりましたが、これまで御指導下さいました諸先生方、日頃から現役部員を御支援いただき我が子のように温かく見守っていただいた諸先輩方はじめ、この演奏会に関わっていただきました全ての方々へ心より御礼申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブ幹事長 永柳 衡

Doshisha College Song

作詞：W.M.Vories
作曲：Carl Wilhelm

1st Stage 合唱のためのコンポジションⅢ

艦
羯鼓
引き念佛

作曲：間宮芳生
指揮：元吉圭太

2nd Stage

Linden Lea 作詞：W. Barnes 作曲：R. Vaughan Williams
Bushes and Briars 作曲：R. Vaughan Williams
The Ballad of Little Musgrave and Lady Barnard
作曲：Benjamin Britten

指揮：伊東恵司
ピアノ：薬師梨恵

—INTERMISSION—

3rd Stage いつからか野に立つて

虹
彼
葡萄に種子があるやうに
光
天
いつからか野に立つて

作詩：高見 順
作曲：木下牧子
指揮：元吉圭太

4th Stage 12月、そしてクリスマス

Lumen Valo	雪の輝き 作曲：Olli Kortekangas
Vepsa Talv	ヴェプサの冬 作曲：Veljo Tormis
Hosianna	ホサンナ 作曲：Selim Palmgren
När det lider mot jul	詩篇23（主は我らの牧者） 作曲：Ruben Liljefors
Psalmi 23	クリスマス讃歌 作曲：Einojuhani Rautavaara
Jouluvirsi	クリスマスへの導き 作曲：Jean Sibelius
Jouluyö	聖夜 作曲：Fr. Gruber
Cantate Domino	主に向かって新しき歌を歌え 作曲者不詳

指揮：松原千振



同志社総長
大谷 實

第102回同志社グリークラブ定期演奏会が、京都コンサートホールにおいて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

ご案内のとおり、同志社グリークラブは、1904(昭和38)年の創部以来の歴史と伝統を有し、常に精力的に合唱活動をおこなってきた同志社きっての名門クラブであります。

去る9月16日、台風13号の影響で激しい雨が降り注ぐ中、柳川市でおこなわれた同志社第8代総長海老名弾正碑前祭においても、彼らは凛として豊かな歌声を聞かせてくれたところであり、彼らは学内の様々な式典において演奏を披露しており、今や、同志社大学には欠くことのできない存在であり、総長として心から敬意を表するところです。

本日の演奏会においても、創部102年の歴史と伝統がこもるGleeful Moodを、心ゆくまで堪能いただけるものと確信しております。

今宵の合唱が、ご来場の皆様の心に深く響き渡り、神の恵みが豊かにありますようお願いいたします。



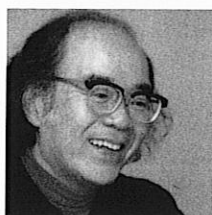
同志社大学長
八田 英二

このたび、第102回同志社グリークラブ定期演奏会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは今年で創部102年目を迎え、長い歴史と輝かしい伝統を保持しつづけながら、同志社大学を代表するクラブとして様々な場において活躍しています。最近では、久留米への演奏旅行や、第55回東西四大学合唱演奏会などを通して、人々に多くの感動を与えてまいりました。

本日の演奏会におきましては、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮し、熱のこもったステージを展開してくれることを期待しています。ご来場いただきました皆様には、部員の意気込みと情熱が伝われば幸いに存じます。

常日頃より部員の活動を支援していただいております諸先輩ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本日の演奏会の成功と同志社グリークラブの益々の発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



全日本合唱連盟理事長
第31代学生指揮者
浅井 敬壹

第102回定期演奏会おめでとうございます。

同志社グリークラブ第31代学生指揮者、浅井敬壹は、第8代(社)全日本合唱連盟理事長に就任致しました。皆さんどうか私を支えてください。お願いします。

皆さん方が演奏会を迎えられるこの時期までに、全日本合唱コンクールはすべて終わりました。私が同志社グリークラブに入部した理由は、私が高3の時、同志社グリークラブが全日本大学部門で15人の審査員満票1位という偉業を達成されたからです。私は同志社グリークラブ31代目の指揮者になりました。メンバー数は186名でした。コンクールは50名、春夏に行う演奏旅行、夏は23日間、ステージ数33、というもので、定員は42~3名でした。いかなるステージを持つにせよ、必ずそこに、競い合いがありました。同志社グリークラブは、上手くなければ駄目なのです。日本の合唱界は、大学部門によって支えられていました。

今年のコンクールで、当時の王者、関西学院グリークラブが、全国大会に出場し、見事金賞を獲得されました。さあ、これからのあなた方の目標は、関西学院グリークラブを破ることです。

今日の演奏会、素晴らしい指揮者と、素晴らしく選り抜かれた曲、特に、松原千振先生にお振りいただけること、心から嬉しく、感謝申し上げます。



同志社グリークラブ顧問
岸 基史

同志社グリークラブの第102回定期演奏会にお越しいただき有り難うございます。2004年にはアメリカで演奏旅行をし、今年には同志社総長海老名弾正の出身地である福岡県柳川市で演奏旅行をしてまいりました。そこでグリーメンは海老名先生の御身内の方・柳川市長・九州にご在住の同志社OB・OGなどの多くの方々と出会い、同志社に対する思いを一層強くしたと思います。そこで得られたものは大きく、将来への糧となるでしょう。

同志社は今年で創立131年目ですが、時代と共に同志社は変容し、また同志社グリークラブも変化を続けております。102年に至るまでにグリーは様々な困難と遭遇しましたが、やはり102年続くというのは並大抵のことではありません。時代・人は変われど、先輩から後輩に受け継がれてゆく「同志社グリーらしさ」があるからこそ今まで続けて来られたのです。今回の演奏会で、また「同志社グリーらしさ」が次年度を担う後輩に受け継がれて行くことと思います。

ともあれ、ご来場の皆様には今日の演奏会を心行くまでお楽しみ頂きたいと思っております。同志社グリーへの皆様の一層の支持を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



同志社グリークラブOB会会長
関西合唱連盟会長
音楽評論家
日下部 吉彦

いま、大学合唱団が、軒並み危機に見舞われているなかで、同志社グリーもその例外ではない。団員が100人を越えたのは、もはや夢のまた夢の時代で、オン・ステの数、20人を切ったりしたこともあった。このような厳しい状況のなかで、しかし、いまの現役メンバーは、じつによくやっていると思う。『数』ばかりが合唱ではない。大事なのは、その内容だ。今回の定期のプログラムを見てもまさに意欲的。『数』の全盛期の頃と比べても、全く遜色のない曲目だ。この背景には、客演指揮の松原千振先生、常任指揮者の伊東恵司さんといった、いまの合唱界を代表する指揮者が迎えられていることの恵まれた環境を忘れてはいけない。これこそ同志社グリー100年の輝かしい歴史の遺産というべきだ。この恩恵に感謝しなければならない。

先生方や、数多くの先輩たちの支援のお陰だが、とはいえ、これからの歴史をつくるのは、現役の諸君自身だ。今日の定期演奏会が、明日のグリーへの立派な「遺産」となるよう、ぜひとも成功させてほしい。成功を祈る。



同志社グリークラブOB会理事長
新井 克次

創立百周年から次の百年へ向けて、原点に戻ってスタートしたグリークラブが歩みの第二歩となる102回目の定期演奏会を開催することができました。客演指揮をしていただく松原千振先生や技術顧問をお願いしている伊東恵司氏を始めとして、この演奏会のご支援をいただいている多くの方々にOBを代表して心より御礼申し上げます。

現役諸君は部員の減少で一人ひとりにかかる負担も大きいものと想像していますが、この難しい時代の中で、男声合唱の中に夢を見出そうとして、懸命に努力している皆さんに、心からエールを送ります。

今年は1回生が20人以上も残っていると聞いて大変嬉しく思っています。その意味では、支えている上級生も大変だと思いますが、少々声が割れようと、学生らしい息吹に満ちた演奏を期待しています。

客演指揮者 松原千振 (まつばら ちふる)



男声合唱考

以前「新島襄の手紙」という本を読んだ。文体が古く読み易い本ではなかったが、強く印象に残ったことがいくつかあった。まず大学設立とその運営の難しさを新島襄が、かつて留学していたアメリカの知人に切々と訴えていることだった。まだ大学という制度が定着していない日本で、文部官僚にはどのように説明し、認可を得るか、そのために賛同者を探し出し、資金を得なければならなかったのである。確か、その本の中で最も長いと思われる手紙は15ページ程に及んでいたと思う。そして最も強く覚えていることは勝海舟との会話だった。はじめはあまり同志社大学設立に賛成でなかった彼は新島襄に「理想とする教育をいったい何年で成就するつもりか」と質し、新島は「およそ200年」と答えた。勝海舟は「それなら賛成しよう」と肯定的になったという。46才でこの世を去る1年2ヶ月前のことである。ここ10年間程の間に、北欧の古い男声合唱団が、相継いで150年、またそれ以上の年月を重ね、記念の行事を行った。男声合唱独自のハーモニーを容作ることの歩みには「理想の教育に200年」と語ったと同様、永遠にゴールはないであろう。だからこそ、この活動に私たちは明確なビジョンを持って望み、ひとつの和音、ひとつの音の経過と共に歩みたいのである。

指揮者 伊東恵司 (いとう けいし)



90年同志社大学を卒業（ポストモダン芸術論を専攻）。在学中「同志社グリークラブ」58代学生指揮者として（故）福永陽一郎に師事。90年以降「淀川混声合唱団」「合唱団：葡萄の樹」「暁ジュニアハーモニー」はじめ多数の団体で指揮者として活躍中。全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」と「アンサンブルVine」で8度の金賞を受賞（6年連続シード権獲得、01,04年度文部科学大臣賞受賞）。宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会では「なにわコラリアーズ」を率い、海外の団体をおさえてグランプリ[総合1位]を獲得している。また近年は大学合唱団の指導や「アルティ声楽アンサンブル」の実行委員長を務めるほか、子どもたちにわらべ歌を教えるために「みやこキッズハーモニー」も創設する等、「合唱に」関する多彩な仕掛けを準備中。豊富なレパートリーに加え、柔軟な練習方法と繊細な音楽作りには定評がある。大阪府合唱連盟理事。京都府合唱連盟理事。

同志社グリークラブは102回目の定期演奏会を迎えます。何度も述べてきていますが、ただ単に長いことに価値があるのではなく、その年々のメンバーがクラブの活動や音楽というものに対して「ひたむきな」努力をしてきたこと…、毎年後輩に受け継がれていくグリーの財産を磨いてきたことこそ価値があるのでしょう。さて、昨年の前期は19名まで落ち込んだメンバーですが、見ての通り四月の必死の勧誘で多数の新入生を獲得することが出来ました。とは言え、キャンパスの二校地間移動や大学のカリキュラムの状況等、同志社グリーを取り巻く環境は決してかつてのような状況でないことは確かです。そんな中、「受け継いでいくべき精神」と「時代に合わせて改革していく精神」との峻別に苦勞しながらも、がんばって一年間活動してきてくれたメンバーには敬意を表したいと思います。また、この夏の久留米の演奏会では地元の方をはじめ様々な人にお世話になって貴重な体験が出来ました。自分たちの活動に対して多くの声援があることに対する感謝の気持ちや謙虚さを常に心に留めることは最も大切なことですが、その一方では決して伝統に應ずることなく、21世紀に相応しい自分たちらしい同志社グリークラブの新しい歴史を切り開いて行って欲しいとも思っております。ぜひ自信をもって歌を楽しみ、自分たちの足で前に進んで行ってください。さて、今年は久しぶりにピアノ伴奏の曲を加え、イギリスの合唱曲にチャレンジいたします。難しいフレージングも多く一年生には苦勞をかけたと思いますが、今夜のステージでは胸を張って堂々と歌ってくださることを期待しています。

ヴォイストレーナー 北村敏則 (きたむら としのり)

京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞受賞。第2回日本シューベルト協会（J.S.G）国際歌曲コンクール第1位及び聴衆審査特別賞受賞。第6回ボルツァーノ（北イタリア）歌曲コンクール第1位及びアダ・ヴェルバ賞受賞。第1回青山音楽賞、京都市芸術新人賞受賞。現在、京都市立芸術大学専任講師、関西二期会会員、日本シューベルト協会会員。



第102回定期演奏会の開催おめでとうございます。伝統と伝説、名演奏や名テノールを生み出し合唱界をリードして来られました同グリさんへの度は、現在飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍されている伊東さんから、その怪物テナーパートのポイトレを任せられることになろうとは夢にも思いませんでした。ところが、いざ初めてポイトレという立場で接してみるとそんな名門クラブ同グリが時代と多様化の波に少しだけ

ヴォイストレーナー 石原祐介 (いしはら ゆうすけ)



私立崇徳高校在学中にグリークラブに入部、合唱を始める。京都産業大学在学中はグリークラブに所属し、学生指揮者を務めた。その後、京都市立芸術大学、同大学院音楽研究科声楽専攻を卒業、修了。卒業時に音楽学部賞を受賞。世界合唱連合(IFCM)主催 World Youth Choir（世界青少年合唱団）1997～1999日本代表メンバー。第21回飯塚新人音楽コンクール声楽部門第2位。これまでに、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」や、バッハ、モーツァルト、ベルト等の宗教曲のソリストを務める。オペラでは、「祝い歌が流れる夜に」金沢公一郎、「フィガロの結婚」フィガロ、アルマヴィーヴァ伯爵、「ジャンニ・スキッキ」ジャンニ・スキッキ等に出演。その他、合唱指揮者、ヴォイストレーナーとしても精力的に活動しており、複数のアマチュアコーラスの指導者を務めている。声楽を灘井誠

山口はやとの各氏に、合唱指揮を吉村信良氏に師事。現在、神戸市混声合唱団に所属。びわ湖ホール声楽アンサンブル登録メンバー。京都バッハ合唱団団員。アンサンブル「風」、グレースコーラス各指揮者。

崇徳高校在学中グリークラブに所属し、明けても暮れても練習ばかりの、文字通り、合唱漬けの青春を送った私にとって、顧問であり、指揮者でもあった、故 天野守信先生の所属していた同志社グリークラブは、あこがれの合唱団の一つでした。先生が亡くなられてからはや2年、ご縁があり今年からヴォイストレーナーとして関わらせていただくことになった時、真っ先に思ったのは、このことを先生が知れば、なんとと言われるだろうかということでした。きっと、厳しい中にも愛情がいつばい溢れていた先生の事です。口では、「お前なんかには務まるものじゃない」と厳しくおっしゃりながらも、その顔は、にこにこ笑っていてくださるのではないかなと、勝手に想像しています。さて、今日の演奏は、会場に足を運んでくださった皆さんにとって、どのように聞こえるのでしょうか。もしかすると、メンバーよりも私の方が緊張しているかもしれません。でも、この緊張感が、あこがれの合唱団に関わらせていただいた証なのでしょう。今日一日を、私も皆さんと一緒に楽しみたいと思います。

ピアノ 薬師梨恵 (やくし りえ)



仁愛女子高等学校音楽科卒業。同志社女子大学学芸学部音楽学科卒業。同志社女子大学音楽会《頌啓会》特別専修生修了。専攻中、第33回同志社女子大学音楽学科定期演奏会の合唱伴奏出演。第51回福井県音楽コンクール文化協議会賞受賞。2002年日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。第26回福井県新人演奏会出演。第43回なにわ芸術祭新進音楽科競演会にて、ピアノ、管弦打楽器の部「新人賞」「大阪府知事賞」「大阪市長賞」「協賛社賞」受賞。第2回武生国際夏季アカデミーにて伊藤恵氏のクラスを受講。アカデミーコンサート出演。これまでに、ピアノを山部晴美、馬淵弘江、高務智子、倉田佳代子の各氏に師事。現在は演奏活動、後進の指導をおこなっている。

創部102年という伝統、長年にわたる同志社グリークラブの素晴らしい歴史と実績。この度、私が新たな歴史を共に刻めることを、大変有難くまた光栄なことと思っております。男声合唱の世界は、高校、大学ともに女子しかいない環境で育った私には想像しにくいものでしたので、始めはとても緊張していました。一回目の練習に参加したとき、伊東先生をはじめ部員の皆様が暖かく迎えてくださったことは、私の緊張を和らげてくれました。また練習中の一点集中した空気、学生指揮者である元吉さんによる練習後の喝、それら全てが新鮮で、「なるほど、学生の熱意と姿勢は102年経った今も、こうやって息づいているのだな」と思ったのを覚えています。そんな皆さんと一緒に一つの音楽を創るということは、普段一人で音を創ることが多い私にとっては、楽しい反面とても難しいことでした。"The Ballad of LITTLE MUSGRAVE and LADY BARNARD", 男声合唱ならではの音域に、穏やかな場面から緊迫した場面への表情の変化、そして最愛の妻を殺さなければならなかった男性の心を、女である私がどれだけ表現できるか…。事実、男声合唱を愛する皆さんの心にどれだけついていけるのかを、常に考えてきた数ヶ月でした。その答えを、本日御来場下さいました聴衆の皆様にお伝えすることができましたら、最高に幸せであります。最後になりましたが、素敵な音楽指導をして下さいました伊東恵司先生に心より感謝いたしますとともに、同志社グリークラブの今後益々の発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

合唱のためのコンポジションⅢ

指揮：元吉圭太

作曲者 間宮芳生（まみやみちお）

1929年北海道旭川市に生まれる。1952年東京音楽校作曲科卒。池内友次郎に師事。1950年代から日本各地の民謡、民俗芸能の音楽の研究に着手、さらに日本だけでなくアジア、アフリカなど、世界の民族音楽を広く研究し、現代的で独自の作品群を生んでいる。また最近では演劇、映画などのBGMも多数手がけている。1992年紫綬褒章受賞。代表作品として「合唱のためのコンポジション第1～16番」オペラ「鳴神」「オーケストラのための二つのタブロー「85」「尺八とチェロのための『KIO』」などがある。

第1章 「鱧（ろ）」

秋田のハタハタ唄を主に素材とする。海が荒れる11月頃がハタハタ漁の盛りで船を出して網を仕掛けるまでの掛け声と網を引くときの掛け声により構成されている。数人の歌い手（船頭）が音頭を取り、それに合唱（漁師達）が応える。荒れた海、漁師達の力強い様子が出ている。

第2章 「羯鼓（かっこ）」

前半と後半は福島県の大野村に伝わる「田打唄」、中間は東京都小河内の鹿島踊りの芸能の一部を素材にしている。羯鼓とは両側からパチでうつ鼓のことで中間部は口唱歌による羯鼓「テンテトテ・・・」のリズムに乗ってSoli及び合唱が鹿島踊りの中の「三番叟」を歌う。

第3章 「引き念佛」

岩手の鬼剣舞の「引き念佛」ほか幾種類かの口唱歌を素材に作られている。鬼剣舞は「南無阿弥陀仏」の念佛の声によって悪霊たちを鎮めてゆく様子を表している。その導き役の踊り手が太鼓やササラをする音が擬音として入る。中間部で怨霊が静かに成仏していく、さらにその上から静かに新たな念佛が始まる、そしてまた勇ましく念佛が始まる。

間宮芳生は、戦後の日本合唱界においてとても重要な位置を占める作曲家である。彼の代表作品である「合唱のためのコンポジション」シリーズは現在混声、男声を含め16番を数えるまでにいたる。今回はその中の3番を演奏する。この作品は日本の民謡、「ハヤシコトバ」を素材に作られている。「ハヤシコトバ」はそれ自体に意味はない、しかしそれを素材にすることにより生み出される民族的な音の世界は、聴く者の心をひきつける。我々が、昔から今日まで受け継がれてきた日本の伝統音楽を今こうして歌い、未来へと引き継いでいくことが、日本文化をより高いものへと変えていくよう願ってやまない。

我々はこの作品を一年間通して演奏し、磨きをかけてきた。2月に行われたフェアウェルコンサートでは在団生20数名で、9月の久留米演奏旅行では新たに1回生20数名を加えて演奏し、好評を得た。今宵、一年間の集大成ともいえるこの定期演奏会で、最高の演奏が出来ればと思っている。（元吉圭太）



第75代学生指揮者 元吉圭太（もとよし けいた）

同志社グリークラブ第75期学生指揮者。

大阪府立春日丘高校出身、同音楽部に所属。彼と同グリのとの出会いは高校にまで遡る。当時から東西四連、関西六連、同グリの定演などを聴きに行き、同グリの「聴衆と一体となった音楽」に感銘を受ける。同志社大学に入学後、自らグリーの門を叩く。1回生の頃より上級生から厚い信頼を得、早くも2回生で技術系の就任が決まる。

彼の合唱に対する思いはグリー以外にも溢れ、忙しい学生生活の合間を縫ってなにわコラリアーズのコンクール活動にも参加。ハイレベルの合唱を肌身で体験する。そこで得られた知識・経験は日頃の練習に活かされており、部員に配慮した新しい発声法・指導法を考案、実践している。また京都の大学合唱団の技術向上のために組織された京都府学生指揮者会の代表も務める。

合唱指導法を伊東恵司氏、前学生指揮者の小林崇諭氏に、発声法を石原祐介氏に師事。

指揮：伊東恵司

Ralph Vaughan Williams (1872—1958)

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズはグスタフ・ホルスト Gustav Holst (1874-1934)と共に、20世紀前半に「イギリス音楽のルネサンス」を築き上げたイギリス最大の作曲家である。王立音楽大学とケンブリッジ大学で学び、ベルリンに留学してブルッフ Max Bruch (1838-1920)に、パリではラヴェルに師事した。オルガン奏者、トロンボーン奏者としても活動し、この修業期間中にイギリス民俗音楽を研究し、30歳頃から本格的作曲活動に入る。国民主義的作風から出発した彼は1934年のホルスト、エルガーの死後、イギリス音楽界の指導的作曲家として活躍し、晩年に近づくにつれて一層精力的な創作を行った。彼の音楽はオペラ、協奏曲、室内楽曲、声楽曲など多岐に渡り、その多様な音楽形式の根底には、常にイギリスの17～18世紀の音楽、伝統的な民謡や賛美歌の世界が存在する。

○ LINDEN LEA (菩提樹の草原)

元は独唱曲であったものを男声合唱にアレンジしたもの。素材はイギリスの南西にあるドーセット州の歌である。

○ BUSHES AND BRIARS (茂みといばら)

イギリスのエセック州で作曲者が地元の人から聞いたものを元に作られたといわれている曲、作曲者はこの曲との出会いからイギリスのフォーク・ソングへの興味を深め、彼の音楽にも大きな影響を与えられることになった。

Benjamin Britten (1913—1976)

ベンジャミン・ブリテンは、イギリスにおける20世紀最大の作曲家である。ロンドン王立音楽院で学び、ウィーンに出てアルバン・ベルクに師事することを考えていたが、大学の反対で断念した。またブリテンは猛烈な反戦主義者であり、イギリスが第二次世界大戦にのめりこむ事に悲観し、兵役拒否の意味合いで一時的にアメリカ合衆国に移住したこともあった。テノール歌手のピーター・ピアーズは盟友として知られ、「ピーター・グライムズ」「戦争レクイエム」等ほとんどの歌劇・声楽曲は彼の演奏を前提に書かれており、彼が初演を担当した。

○ The Ballad of LITTLE MUSGRAVE and LADY BARNARD

(小姓マスグレイトとバーナード夫人のバラッド)

第二次世界大戦中、ブリテンがドイツの捕虜収容所に収監されている友人のリチャード・ウッド中尉から依頼を受けて書いた曲。1943年12月13日に男声とピアノのためのこの「バラッド」を完成し「ドイツ、アイヒシュテットのリチャード・ウッドと音楽家たちのために」という献辞を添えて収容所宛に送った。初演は1944年2月、同収容所で行われた。

いつからか野に立つて

指揮：元吉圭太

作詞者 高見 順 (1907～65)

非嫡出子として福井県三国町にて生まれる。父親に一度も会うことなく育つ。東京帝国大学卒業、在学中よりプロレタリア文学の一旦を担う作家として活動する。作家だけでなく詩人としても活躍、また日本近代文学館の建設に尽力する。

代表作として「故旧忘れ得べき」「如何なる星の下に」「いやな感じ」「死の淵より」がある。

作曲者 木下牧子

東京生まれ、都立芸術高校ピアノ科卒業。東京芸術大学を主席で卒業、同大学院終了。現代邦人作曲家の中で、最も人気のある作曲家の一人である。合唱曲以外にも、オペラ、独唱曲、吹奏楽、ピアノ曲など、幅広い作曲活動を行っている。合唱曲の代表作として「邪宗門秘曲」「方舟」「夢みたものは」「地平線のかなたへ」などがある。

「いつからか野にたつて」

2003年、信州大学グリークラブによって委嘱、初演された。テキストは高見順の比較的早い時期に書かれた6篇の詩からなっている。「虹」「葡萄に種があるやうに」「天」では静かで内省的、叙情的な旋律が、男声のロマンティシズムを出している。「彼」では自嘲的な歌詞の内容を、8分の6の軽快なリズムでコミカルに歌う。「光」「いつからか野に立つて」は、動的なメロディーからエネルギーに満ちた人間の感情が溢れ出す。

演奏するにあたって

今年の6月末、第55回東西四大学合唱演奏会において同志社グリーは「いつからか野に立つて」を、ここ京都コンサートホールで演奏した。昨年と同じく上回生的人数が20名弱と少ない中で、昨年度からの課題である「響きをそろえる」「アンサンブル能力の向上」、この二点を徹底的に鍛え抜く練習をして本番に挑んだ。今回定期演奏会でこの曲を取り上げることになり、部員達とどのように仕上げているかと考えたときに、「同志社グリークラブらしさ」を出すことが一番強く頭の中に残った。

大学合唱団は一年毎にメンバーが入れ替わっていく。そんな中で、102年間受け継がれてきた「同志社グリークラブらしさ」、自分が四年間クラブに在籍して先輩方から教えられてきたものを、今度は自分が学生指揮者として下回生達に引き継いでいかなければならないこと、それと共に、今後クラブの技術が向上していくような練習を常に計画していくこと、この二つが、今年一年における自分の最も大きな仕事であった。長年続いてきたクラブだからこそ守り抜いていかなければならない伝統、時代の変化と共に変えていかなければならない伝統、このクラブにはそれを見分けることが必要だと思う。ここ数年減少を続けていた部員数も、今年は1回生が約20名入部し、総勢40名強で定期演奏会の舞台に上がる。日本における大学男声合唱団は、年々人数の減少が進み、活動の縮小あるいは停止になる団も少なくない。わが団も創部100年を過ぎ、これからも時代の変容、学生気質の変化と共に歩みを続けていくが、その中で守り抜いていかなければならない「同志社グリークラブらしさ」、そして我々が常に目標としている「聴衆と一体となった音楽」。これらを大切に今後日々努力しなければならない。

荒々しいが輝きを放っている同志社グリーの音楽、このステージでは、それを見せられればと思っています。

(元吉圭太)

12月、そしてクリスマス

指揮：松原千振

Olli Kortekangas オッリ・コルテカンガス (1955～) Lumen Valo 雪の輝き

現代フィンランド人作曲家コルテカンガスは「A」「Maa」(大地)といった自然と人間を表現するような作品を残してきた。1984年に作曲されたこの曲は、テキストを用いず、母音を変化させることのみで、雪の輝きの表現を試みる作品で、男声合唱の音域を有効に使うユニークな作品である。白い雪が単に白いのではなく、雪原にさす陽の光による変化、昼夜における変化等多様な表情が見られる。

Veljo Tormis ヴェリヨ・トルミス (1930～) Vepsa Talv ヴェプサの冬

エストニア人作曲家トルミスは、自国周辺の少数民族にも深い関心を持ち、このような作品を数多く書いている。ヴェプサ人が迎える冬は、厳しい寒さの中に歌を愛し、民族楽器をかき鳴し、決して暗い雰囲気の中ではない。バラライカ、アコーディオンを模倣する愉快で、活発な冬を描いている。

Selim Palmgren セリム・バルムグレン (1878～1951) Hosianna ホサンナ

フィンランド国民楽派の一人バルムグレンは、約120曲の男声合唱曲を残し、この国の合唱の伝統を築いた重要な作曲家である。フィンランド語のみならず、スウェーデン語、ドイツ語、デンマーク語等で作曲し、その色彩感あるハーモニーは実に美しい。Hosiannaは主のイェルサレム入城を描く堂々とした合唱曲で、ユニゾンから各テーマが始まり、自由な和声感覚に身を任せ、朗々と歌われる。

Einojuhani Rautavaara エイノユハニ・ラウタヴァーラ (1928～) Psalmi 23 詩篇23 (主は我らの牧者)

現代フィンランドを代表する作曲家、ラウタヴァーラはオペラ、七つの交響曲、ピアノ協奏曲、そして合唱曲と、シベリウスの築いた伝統を受け継ぐ重要な作曲家である。旧約聖書詩篇23はシューベルトをはじめ、多くの作曲家によって合唱曲となった。教会の鐘を思わせるような和声に始まり、各パートにテキストが配置されて進んでゆく。そして、厳かに聖餐の様子が表現される。実に訴える力の強い宗教音楽である。

Jean Sibelius ジャン・シベリウス (1865～1957) Jouluvirsi クリスマス讃歌

シベリウスがこのメロディーを作曲したのは、14歳頃と伝えられている。当時のスウェーデン系の詩人トベリウスの詩を4編クリスマスの歌として作曲し、その中でも最も有名となり、作曲者自身により、混声、男声、オルガン伴奏に編曲された。ただ神の愛を信じ、無垢な心を単純な音楽とした。

Ruben Liljefors ルーベン・リリエフォルス (1871～1936) När det lider mot Jul クリスマスへの導き

スウェーデンロマン派リリエフォルスの柔らかなクリスマスの歌である。暗い夜に星が輝き、クリスマスの到来が告げられる。雪の原にも光がさし、北欧の厳しい冬を明るくしてゆく。そんな何気ない描写がこの合唱曲をつくっている。

Franz Gruber フランツ・グルーバー (1787～1863) Jouluyö 聖夜

オーストリアの片田舎の教会音楽家だったグルーバーの1818年に作曲された作品。クリスマスイブに作曲され、クリスマス当日は、オルガンの故障でギター伴奏で歌われた。日本語訳は1894年、関西学院卒の牧師由木康によってつくられた。

作者不詳 Cantate Domino 主に向かって新しき歌を歌え

詩篇149 (150) をテキストとした合唱曲は多くの作曲家が書いている。活気ある男声合唱曲となっているこの曲の作者はどこの国の人かも詳らかではない。バロック風でもあり、またロマン派音楽とも感じられる。

Members

同志社グリーンクラブ

名誉顧問 遠藤 彰

顧問 岸 基史

技術顧問 伊東 恵司

テノールヴォイストレーナー 北村 敏則

ベースヴォイストレーナー 石原 祐介

幹事長 永柳 衡	ステージマネージャー 山中 彰	学生指揮者 元吉 圭太
副幹事長 田中 健之	会計 園田 雅樹	学生副指揮者 正川 勲
内政 金谷 章文	ローテーション委員 辻 那由他	Top Tenor Part Leader 永柳 衡
石田 大士	全同志社メサイア実行委員 種田 成昭	松本 和也
外政(東西四連) 秦 和宏	富田 晋司	Second Tenor Part Leader 上本 泰寛
富田 晋司	資料担当 上本 泰寛	田中 健之
外政(大阪兵庫) 三木 雄介	ホームページ担当 山中 彰	Baritone Part Leader 元吉 圭太
種田 成昭	演奏旅行担当 園田 雅樹	石田 大士
外政(京都) 三木 雄介		Bass Part Leader 金谷 章文
山中 彰		正川 勲

TOP TENOR

三木 雄介 (商4・東住吉)	藤田 尚人 (経2・摂陵)	古口 雄大 (文1・宇都宮東)
永柳 衡 (商4・京都成章)	諸岡 大聞 (法2・大阪桐蔭)	濃畑陽二郎 (神1・関東国際)
松本 和也 (工3・宇和島東)	池田 慧 (工1・旭丘)	竹中悠一郎 (工1・宮崎西)
種田 成昭 (経3・上宮太子)	岩田 智宏 (法1・大垣東)	

SECOND TENOR

秦 和宏 (経4・大成)	坂井 良行 (経2・関)	築山 和平 (経1・近畿大学附属東広島)
上本 泰寛 (経4・崇徳)	竹原 翔太 (工1・牧野)	山田 英明 (商1・大分上野丘)
田中 健之 (法3・八頭)	谷口 剛史 (経1・桃山)	
辻 那由他 (経2・朱雀)	東郷 嘉人 (政策1・登美丘)	

BARITONE

元吉 圭太 (工4・春日丘)	坂田 敬次 (工2・浪速)	鈴木 隆介 (文1・岡崎)
園田 雅樹 (工4・高岡)	藤瀬 雅章 (文1・西宇治)	渡邊 裕義 (工1・西宮)
石田 大士 (文3・春日丘)	廣田 修一 (商1・日本大学第二)	横山 祐馬 (文1・大検)
山中 彰 (経3・智辯学園和歌山)	本郷 智史 (経1・金沢桜丘)	
青木 和仁 (経2・京都成章)	生駒 実 (工1・山城)	

BASS

金谷 章文 (法4・帯広三条)	二橋 健太 (工2・清風)	飯島 尚紀 (法1・幕張総合)
根津 仁詩 (神3・夢野台)	小崎 純一 (社会2・春日丘)	小久保直彦 (工1・暁)
正川 勲 (経3・洛南)	嶋田 公典 (法2・高槻)	小田 和司 (工1・開明)
富田 晋司 (文3・天王寺)	原田 尚樹 (商1・三原)	

第102回同志社グリーンクラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。
誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

昭和10年 福山 秀男	昭和36年 下津 啓誠	昭和42年 栗山 昭男	昭和57年 筒井 隆文
昭和24年 豊田 俊一	村田 由高	澁谷 和彦	宮島 寿
長島 俊司	森本 潔	白井 孝	昭和58年 小田垣正美
西村 隆三	山田 英二	館 和道	昭和59年 豊田 尚紀
昭和26年 福永 嘉彦	山田 昌彦	出口 正昭	銚山 琢磨
真下喜二郎	横田 義	山根 礪	昭和60年 河村 一良
昭和27年 今西 政弘	昭和38年 幸田 長明	吉田 孝昭	白井 幸彦
日下部吉彦	林田 慎也	昭和43年 川上 貴裕	高橋 圭二
土肥 通夫	真野 光長	神谷 洋司	中西 雅樹
昭和28年 齋藤 勲	森本 久光	中根 敏雄	西尾 強志
昭和29年 二橋 英雄	山内 康次	深木善治郎	和田 秀樹
野村 秀治	昭和39年 岩木 六馬	山根 廣	昭和61年 尾池 智治
吉川悟一郎	後藤 健夫	昭和44年 小瀬 昉	木下 勝
吉田庄之介	鈴木 謙介	檜垣 康治	昭和62年 高木 憲治
昭和30年 赤井 和夫	西川 紀行	昭和46年 東 英達	松本 裕士
門田 耕一	畑中 宜彦	福島 稔	昭和63年 梅田 隆司
昭和31年 朝倉 盛之	牧野 章造	昭和47年 前田 憲一	平成02年 栗田 陽一
今藤 勇	山中 信與	昭和48年 横尾 修	廣島 映一
越智 常雄	昭和40年 大熊 政次	昭和50年 新井 克次	平成04年 岸間 昭一
澁谷 昭彦	岸本 修一	小糸 徹	平成05年 鐵見 太郎
橘 守	渋谷 鷹一	昭和51年 河村 淳	林 克己
野岡 明	林 泰夫	昭和52年 山下 裕司	播磨 剛
堀 哲雄	昭和41年 石田 嘉彦	昭和53年 稲熊 裕之	平成06年 浅海 誠
野村 忠	大原 康弘	昭和54年 中山 篤	谷本 啓
昭和32年 高木 勝元	小川 徹	廣瀬 健	平成07年 吉武 晃
湯浦 章	影田 武道	福澤 敬	平成10年 入江 隆生
昭和34年 大友 慶介	北村 徹男	矢ヶ崎一之	小林 香太
尾崎 公昭	木下 利彦	昭和55年 梶浦 義人	平成14年 佐久間 亮
村橋 輝正	須田 禎治	昭和56年 今村 幸彦	渡辺 哲平
村中 裕	滝沢 裕人	落合 均	平成15年 伊藤 稔
森田 秀夫	中野 皓夫	改正 将夫	平成16年 蓮池 章弘
芳崎 栄治	橋詰 崇史	紀伊 基雄	宮川 渉
昭和35年 石井正一郎	溝部 昭征	黒木 義朗	平成17年 松岡 元気
砂原 和彌	森田 恒孝	増田 佳昭	平成18年 村瀬 賢大
昭和36年 朝比 久雄	昭和42年 植松 康男	昭和57年 芹田 直幸	西川 潤

*尚、〆切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。

第56回 東西四大学合唱演奏会

同志社単独演奏 指揮:伊東恵司
四大学合同ステージ「ゆうやけの歌」
指揮:高嶋昌二

2007年7月1日(日)昭和女子大学人見記念講堂

第103回同志社グリークラブ定期演奏会

2007年12月15日(土)
京都コンサートホール大ホール

依頼演奏大募集!

同志社グリークラブは随時依頼演奏を募集しております。
結婚式・興添え・演奏会など、色んなご要望にお答えします。
ご連絡は田中TEL090-5708-4000までお願いいたします。

つぼ八

〒605-0009

京都府京都市東山区大橋町115番地 尚美ビル1F

電話番号: 075-762-1110

営業時間: PM5:00~AM5:00

ご旅行は日本教育旅行で!!

各種旅行会社(JTB・日本旅行 etc) 国内・海外パンフレット取扱い可能!!
他にもクラブ・サークル・ゼミなどの合宿、スキー旅行、団体旅行も取り扱っております。
貸切バスなどの交通手配から宿の手配までなんでもお任せ下さい!

日本教育旅行株式会社
TEL.075-351-0405 FAX.075-371-7739
http://www.net-freeway.com
E-mail: k-yuri@net-freeway.com
担当: 苺谷 悠里 (かりたに ゆり)

これからの時期、
スキー&
スノーボード旅行が
オススメです!!



カラーのチラシ作りたい...けど、 予算がないと、あきらめてませんか!

希望いっぱいの演奏会。「予算がないからチラシは1色刷りで...」と思ってませんか?
西湖堂印刷開発部では、このたび画期的な制作方法の転換により、
従来の1色刷相当の価格でカラーのチラシを制作する方法を実現いたしました。

たとえば...

B5サイズ・カラー4色刷りチラシ
2,000枚で¥29,400 (@14.7)
8,000枚で¥67,200 (@8.4)



SAIKODO Printing Co., Ltd.

西湖堂印刷株式会社 ●京都市下京区高倉通四條下ル ●TEL.075-351-9127 FAX.075-361-4096

◆お問い合わせ 075-351-9127(吉村)まで info@saikodo.com

●チラシご注文時にご用意いただくモノ
使用したい素材(写真・イラスト等)
入れたい文字情報のテキストファイル
希望のレイアウト(手書きでも可能です)

基本となる原案をお持ちいただいて、
それを修正しながら進める方法をとれば、
営業範疇のデザインということ、
無料でデザインについてアドバイスができます。
当社の経験とノウハウを有効にご利用ください。

同志社グリークラブ
102周年度卒団生のための

フェアウェルコンサート

2007年2月17日(土)

同志社礼拝堂

お求めは：
 京都店(四条富小路角)
 京都駅前(サ・キューブ内)
 京都ポルタ店・京都アパ
 大丸京都店・大丸山科店
 近鉄京都店・近鉄桃山店
 福寿園CHA研究センター
 京都府木津町相楽台三丁目一三
 関西文化学術研究都市内
 本 社・工場
 京都府山城町上狛東作道一
 110774(八六)三九〇一
 http://www.fukukuen.com

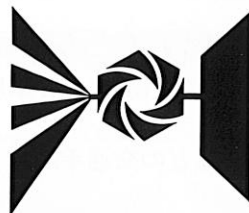


おいしいお茶
 お詰めは
 京都
 福寿園でございます。



きらめく瞬間を未来に伝えたい。

あなたのきらめくその一瞬を素敵にとらえる。
 未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、
 いつもいっしょうけんめいのお阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE
 株式会社 大阪フォトサービス

〒550-0006 大阪市西区江之子島1丁目5-17
 TEL(06)6443-7608 FAX(06)6443-4437

http://www.osakaphoto.co.jp/ E-mail:sales@osakaphoto.co.jp

SOUND STUDIO OKA Inc.

TEL (075)712-5710 FAX (075)721-0835
 Tokyo Point TEL (03)5430-7370
 http://www.ssoka.co.jp

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町70番地



Recording



oap!



esign

CD製作1枚から。

カメラ1台から5台まで。

名物 田毎そば

KYOTO
御蕎麦
 SINCE 1867



三條本店 三條通寺町東入 ☎221-3030 ●営業時間 午前11時～午後9時迄
 府庁前店 京都府庁正門前 ☎255-7775



音楽事務所 / 総合企画・印刷

株式会社 **ポコアポコ**

http://www.pocoapoco.co.jp/

ご予算に応じたよりよい方法をご提案します。

〒604-8451 京都市中京区西ノ京御輿岡町19-5

TEL: 075-467-1551 / FAX: 075-467-1552

E-MAIL: info@pocoapoco.co.jp

各種印刷・DTPデザイン・コンサート企画・小部数対応CD製作・格安ビデオダビング・オリジナル記念品

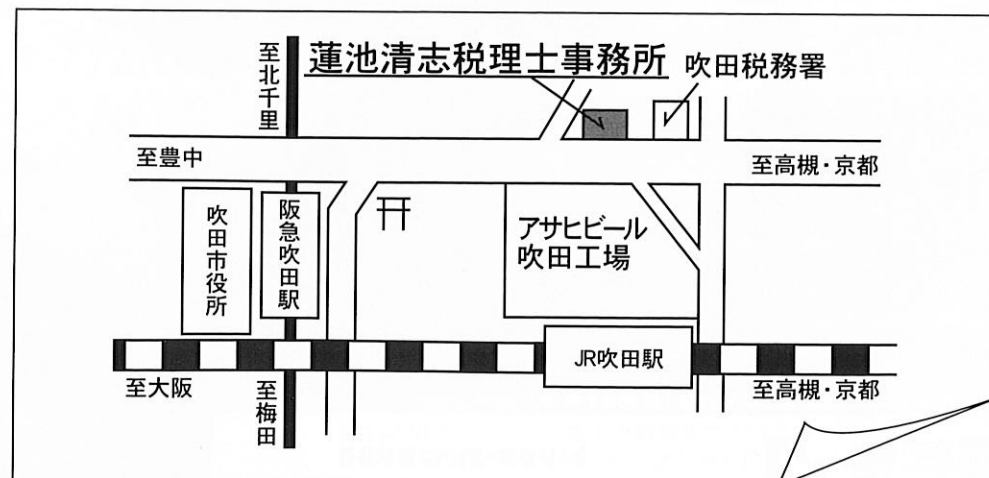
蓮池 清志 税理士事務所

税理士 蓮池 清志

〒564-0082 大阪府吹田市片山町3-1-11

TEL 06(6389)5666

FAX 06(6330)6367



医療
文化 環境

医療・文化・環境への貢献

■ミックグループ 代表取締役 木下利彦(昭和41年卒)



東京都新宿区新宿1-8-5 TEL: 03-3350-1661
<http://www.mic.jp>

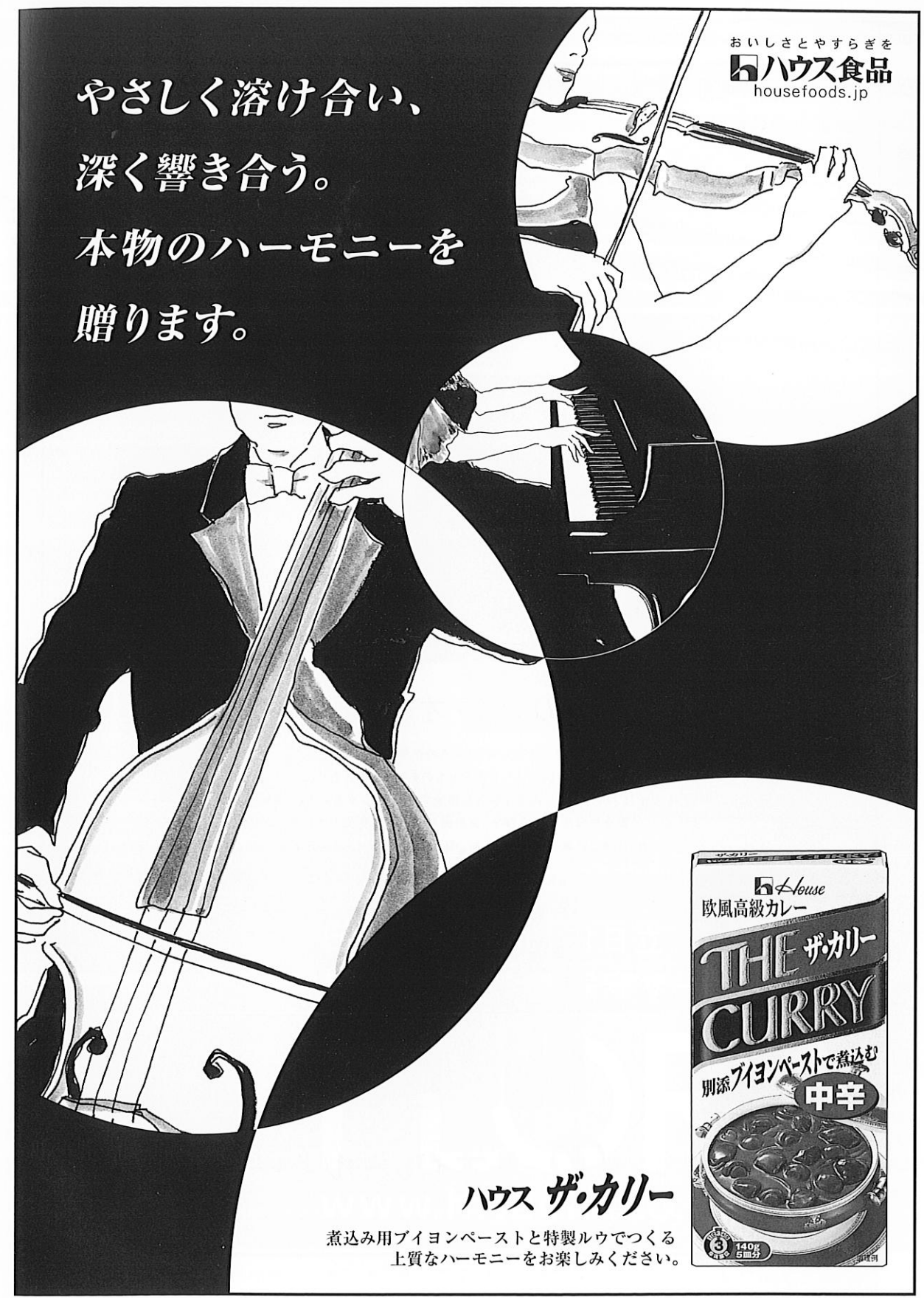
▶ **ドクター・ジャパン株式会社**

東京都新宿区新宿1-8-5 TEL: 03-3226-4731 http://www.mic.jp/business/dr_japan

MIC 美凱 美凱(大连)科技有限公司 MIC(DALIAN)CO.,LTD.

やさしく溶け合い、
深く響き合う。
本物のハーモニーを
贈ります。

おいしさとやすらぎを
ハウス食品
housefoods.jp



ハウス ガカリ

煮込み用ブイヨンペーストと特製ルーでつくる
上質なハーモニーをお楽しみください。

「豊年」「AJINOMOTO」「ゴールデン」
ブランドの食用油を、
みなさまの食卓へ。



育ち盛りの、J-オイルミルズ。


たくさん食べて大きくなるのが子供の仕事。

できるだけおいしくて安全なものを与えたいですね。

株式会社J-オイルミルズは日本の食用油のリーディングカンパニーとして、
よりおいしく安全な幅広い商品群で、次の時代へ豊かな食文化を伝えていきます。

おいしさと健康をすべての人に。私たちは、J-オイルミルズです。

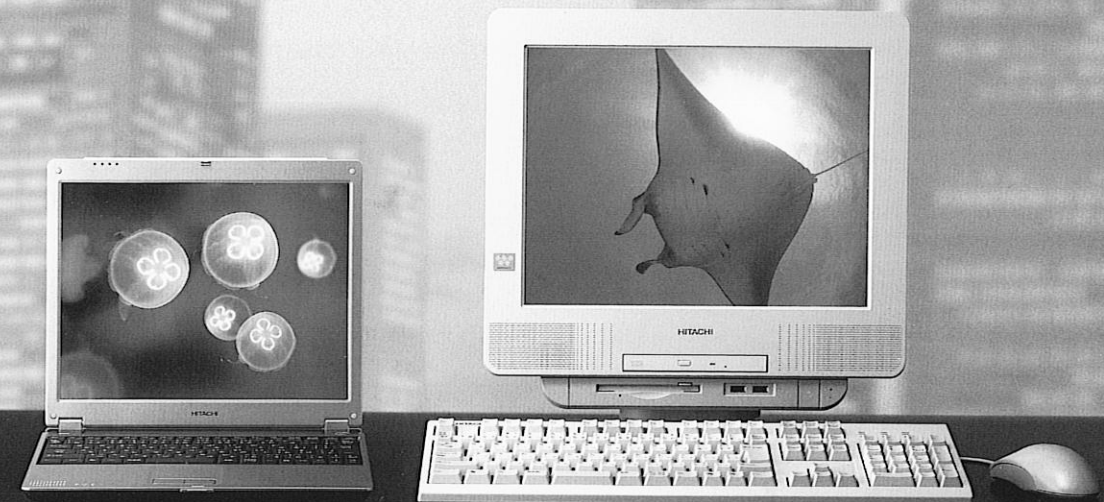


 **J-オイルミルズ**
J-OIL MILLS

株式会社 J-オイルミルズ 〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー <http://www.j-oil.com/>

HITACHI
Inspire the Next

そのビジネスを支える、
日立のパソコン。



ビジネスパソコンは日立。
納得の3年無償保守サービス。

FLORA
www.hitachi.co.jp/flora/

 株式会社 日立製作所 ■お問い合わせは、HCAセンター ☎0120-2580-12 (9:00~12:00/13:00~17:00 土、日、祝日を除く)

Jouluvirsi

作曲 : Jean Sibelius

En etsi valtaa, loistoa,
 en kaipaa kultaakaan,
 ma pyydän taivaan valoa
 ja rauhaa päälle maan.
 Se joulu suo, mi onnen tuo,
 ja mielet nostaa Luojan luo,
 ei valtaa eikä kultaakaan,
 vaan rauhaa päälle maan.

Suo mulle maja rauhaisa
 ja lasten joulupuu,
 jumalansanan valoa,
 joss' sieluin kirkastuu.
 Tuo kotihin, jos pieneenkin,
 nyt joulujuhla suloisin,
 jumalansanan valoa ja mieltä jaloa.

Luo köyhän niinkuin rikkahan saa,
 joulu ihana!
 Pimeyteen maailman
 tuo taivaan valoa!
 Sua halajan, sua odotan,
 sä Herra maan ja taivahan,
 Nyt köyhän, niinkuin rikkaan
 luo suloinen joulus' tuo!

Jouluyö (聖夜)

作曲 : Fr. Gruber

きよしの夜 星はひかり
 すくいのみ子は まぶねの中に
 ねむりたもう、いとやすく

きよしこのよる み告げうけし
 まきびとたちは み子の御前に
 ぬかずきぬ、かしこみて

きよしこのよる み子の笑みに
 めぐみのみ代の あしたのひかり
 かがやけり、ほがらかに

Cantate Domino

Cantate Domino canticum novum
 Cantate Domino omnis terra
 Et benedicite nomini ejus

私は権力も栄光も
 富も求めません。
 私が望んでいるのは、
 天の光と地の平和です。
 クリスマスよ、幸福をもたらし、
 私たちの心を神聖なもので満たしてください。
 権力も富もいりません、
 地球が平和であれば…

平和な家を守り、
 子供部屋にはクリスマスツリーが飾られています。
 神のことは光となり、
 心を晴れ渡らせてくれます。
 いま、あの小さな家でさえも、
 クリスマス祭によって幸せな気分を満たされています。
 神のことは光となって、気高く心を打つのです。

クリスマスの奇跡が貧しい人にも
 裕福な人にも訪れますように。
 地球の闇が
 天国の光になりますように。
 地球と天国の神よ、私はあなたに憧れ、
 あなたを待っているのです。
 貧しい人にも裕福な人にも
 すばらしいクリスマスをもたらしてください。

新しい歌もて 主に向かって歌え
 全地よ 主に向かって歌え
 そして、主の御名を賛美せよ

第102回同志社グリークラブ定期演奏会

歌詞集

本日はお忙しい中ご来場くださりまして誠にありがとうございます。最後になりましたが、このパンフレット製作にあたりまして、快く原稿をご執筆くださいました諸先生方、広告並びに、協賛を頂きました皆様、西湖堂印刷の吉村社長、その他この日のためにご尽力下さいました全ての方々、そして何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも同志社グリークラブへのご声援よろしくお願ひいたします。

2006年 師走 同志社グリークラブ一同

第102回同志社グリークラブ定期演奏会パンフレット
 発行:同志社グリークラブ/印刷:西湖堂印刷株式会社

2006年12月9日 於京都コンサートホール大ホール

Linden Lea

作詞 : W. Barnes
作曲 : R. Vaughan Williams

Within the woodlands, flowery gladed,
By the oak tree's mossy moot,
The shining grass-blades, timber-shaded,
Now do quiver under foot;
And birds do whistle overhead,
And water's bubbling in its bed,
And there for me the apple tree
Do lean down low in Linden Lea.

When leaves that lately were a-springing
Now do fade within the copse,
And painted birds do hush their singing
Up upon the timber tops;
And brown-leaved fruit's a-turning red,
In cloudless sunshine, overhead,
With fruit for me, the apple tree
Do lean down low in Linden Lea.

Let other folk make money faster
In the air of dark-roomed towns,
I don't dread a peevish master;
Though no man do heed my frowns,
I be free to go abroad,
Or take again my homeward road
To where, for me, the apple tree
Do lean down low in Linden Lea.

Bushes and Briars

作曲 : R. Vaughan Williams

Through bushes and through briars,
I lately took my way;
All for to hear the small birds sing,
and the lambs to skip and play.

I overheard my own true love,
her voice it was so clear;
"Long time I have been waiting for
the coming of my dear.

Sometimes I am uneasy
and troubled in my mind;
Sometimes I think I'll go to my love
and tell to him my mind.

And if I should go to my love,
my love he will say Nay;
If I show to him my boldness,
he'll ne'er love me again".

森に 花いっぱい空き地の中に
苔むしたオークの木公会堂のそばに
輝く草の葉 陰に隠れた樹木に
今 足元で揺れている
鳥たちは頭上でさえずり
水底から水が湧き出て
林檎の木は私に
深く頭を垂れる 菩提樹の草原にて

この間まで芽を出していた葉は
今は林の中に消え
色とりどりの鳥たちは歌をやめる
木々の上にて
茶色の葉の果実は赤く熟れる頭上の
雲ひとつない陽の光のもとで
林檎の木はその実を私に差し出し
深く頭を垂れる 菩提樹の草原にて

他の人たちには早く金儲けさせておけ
暗い街の空気の中で
怒りっぽい雇い主など怖くない
誰も私のしかめ面を気に留めないけども
私は自由だ 外国へ行こうとも
再び家路につこうとも
林檎の木が頭を垂れる
菩提樹の草原に行こうとも

茂みと茨を通して、
最近僕は自分の道をたどった
小さな鳥が歌い、
また子羊が跳ね戯れるのを

僕はふと恋人の声を耳にした
彼女の声はそれほどははっきりしていた
「長いこと私は
愛する人を待っている

時折、私は不安になったり
心が乱れたりする。
時折、私は恋人のもとに行きたくなる
彼に私の心を伝えたくなる

もし、私が彼の元に行けば
彼は拒絶するだろう
もし、私が図太さを見せてしまったら
彼はもう私を愛することはしないだろう

The Ballad of Little Musgrave and Lady Barnard

作曲 : Benjamin Britten

As it fell on one holyday,
As many be in the year,
When young men and maids together did go
Their matins and mass to hear,

Little Musgrave came to the church door -
The priest was at private mass -
But he had more mind of the fair women
Than he had of Our Lady's grace.

The one of them was clad in green,
Another was clad in pall,
And then came in my Lord Barnard's wife,
The fairest amongst them all.

Quoth she, 'I've loved thee, Little Musgrave,
Full long and many a day'
'So have I lov'd you, my fair ladye,
Yet never a word durst I say.'
'But I have a bower at Bucklesfordberry,
Full daintily it is dight
If thou'it wend thither, thou Little Musgrave,
Thou's lig in my arms all night.'

With that beheard a little tiny page,
By his lady's coach as he ran.
Says, 'Although I am my lady's foot-page,
Yet I am Lord Barnard's man!'

Then he's cast off his hose and cast off his shoon,
Set down his feet and ran,
And where the bridges were broken down
He bent his bow and swam.

'Awake! thou Lord Barnard,
As thou art a man of life!
Little Musgrave is at Bucklesfordberry
Along with thine own wedded wife.'

He called up his merry-men all:
'Come saddle me my steed;
This night must I to Bucklesfordb'ry,
For I never had greater need.'

But some they whistled, and sang,
And some they thus could say,
Whenever Lord Barnard's horn it blew:
'Away, Musgrave, away!'

年に幾度かの
祝祭日のとある朝
教会の祈祷とミサを聞こうと
若い男女がうちそろってやってきた

若者マズグレイブも入口に・・・
ミサの最中(さなか)なのに
彼は マリア様ではなくて
美しい女性たちに心を奪われていた

一人の女性は緑の外着
もう一人は白のビロード
その時 われらが領主の奥方様が入ってこられたのだ
この上なく美しい奥方様が……

「若きマズグレイブよ！ わらわは
千秋の思いで来る日も来る日もおまえを想ってたのよ」
「私もです奥様 あなた様をお慕いしておりましたでも
一言も申し上げる勇気がありませんでした 一言さえも」
「バックレスフォードベリーに
わたしの隠れ家があるのよ
優雅に飾ったお部屋があるの
おまえが来てくれるなら 夜通し抱きしめているわ」

馬車の脇で小走りのチビの小姓が
それを聞きとめて言った
「私めは奥方様の僕(しもべ)ですが
領主様の真つ当な召使でもあります」

小姓が長ズボンと靴を脱ぎ捨て
裸足で走ってきたのは
壊れた橋のたもと
彼は懸命に泳いだ

「領主様 起きてください！
起きて！ 雄々しいお方様……！
若造のマズグレイブが奥方様と
バックレスフォードベリーにしゃこんでいるのです」

領主は家来たちみんなを たたき起こした
「わが駿馬に鞍をつけよ
今宵 バックレスフォードベリーに
行かねばならぬ 是が非でも 是が非でも」

領主が角笛を吹いて
家来たちは口笛を
吹き唱った
“失せろ 失せろよ、マズグレイブ”

'Me-thinks I hear the threstle-cock,
Me-thinks I hear the jay;
Me-thinks I hear Lord Barnard's horn,
"Away Musgrave"

'Lie still, thou Little Musgrave,
And huggle me from the cold;
Tis nothing but a shepherd's boy
A driving his sheep to the fold.'

By this, Lord Barnard came to his door
And lighted a stone upon;
And he's pull'd out three silver keys,
And open'd the doors each one.

He lifted up the coverlet,
He lifted up the sheet:

'Arise, arise, thou Little Musgrave,
And put thy clothe's on;
It shall ne'er be said in my country
I've killed a naked man.

I have two swords in one scabbard,
They are both sharp and clear;
Take you the best, and I the worst,
We'll end the matter here.'

The first stroke Little Musgrave struck
He hurt Lord Barnard sore;
The next stroke that Lord Barnard struck,
Musgrave ne'er struck more.

'Woe worth you, my merry-men all,
You were ne'er born for my good!
Why did you not offer to stay my hand
When you saw me wax so wood?'

For I've slain also the fairest ladye
That ever wore woman's weed,
Soe I have slain the fairest ladye
That ever did woman's deed.
'A grave,' Lord Barnard cried,
'To put these lovers in!
But lay my lady on the upper hand,
For she comes of the nobler kin.'

「あれはスレッスル鳥の鳴き声で
しょうか それともカケスでしょうか……
いえ、あれは御領主様の角笛です
失せろマスグレイブ！ 失せろ！」

「じっとしてて じっとしてて愛しいマスグレイブ
抱きしめてちょうだい 寒いよ
あれは ただの羊飼いの羊を柵に
追い込んでるのよ」

そのとき既に、領主は戸口で
敷石に立ち
三つの銀の鍵を取り出し
それぞれでドアを開けた

彼はベッドカバーをめくり
シーツを剥いだ

「起きろ 起きろ マスグレイブめ
服を着ろ
おれは 裸の男を殺したなんて
領内で言われたくはないんだ

この鞘に二本の刀がある
切れ味鋭く 冴えざえとして……
いい方を取れ おれは 悪い方でいい
おれとおまえは ここでケリをつけるのだ」

最初のマスグレイブの一撃は
領主を激しく傷つけた
つづく領主の一撃で
若者は再び立ち上がれなかった

「この罰あたりめらが！
おまえたちはみんな 罰あたりばかりだ
おれの役にたったことなど 一度だってありはしない
どうしておまえらはおれの手をとどめようとしなかったのだ

おれは この世で
一番美しく装ったわが妻までも
殺してしまったではないか。この世で
一番 優雅にふるまった妻までも」
領主は泣き叫んだ「この二人を墓に葬ってやれ
だが わが妻が上だぞ
彼女は由緒ある生まれなのだから
高貴の生まれなのだから……」

「いつからか野に立つて」

作詞：高見順
作曲：木下牧子

虹

ひとびとの
悲しいおもいが
昇天して虹になる
悲しみが美しく
天を飾るのだ

あるとき僕は
それを知ったのだ
僕の悲しみに
虹が呼びかけたのだ
早くおいで ここへと

だがまたあるとき
僕の悲しみは
天へ昇るまえに
僕の心のなかで
早くも虹になっていた

彼

彼は年柄年中演をかんでゐる。
彼は鼻が悪いからだ。
彼は年柄年中何か書いてゐる。
彼は心が病気だからだ。

病気だから彼は大きな声で怒鳴らない。
人の邪魔はしない、
人の生活に文句はつけない、
自分が苦しんでゐるから人を苦しめない。

彼は鼻が悪いから、
下らないことを嘆き出したりはしない。

彼は年中演をかみながら、
何かしらゴツゴツと書いてゐる。

葡萄に種子があるやうに

葡萄に種子があるやうに
私の胸に悲しみがある

青い葡萄が
酒に成るように
私の胸の悲しみよ
喜びに成れ

光

今日も亦私は人を憎む
ざらざらひかる夏の光のなかで
私は私の憎しみをざらつかせる
生きることは憎むことであるか

はなばなしくさかんに燃える光のなかで
私の憎しみが私を悲しませる

天

どの辺からか天であるか
鳶の飛んでゐるところは天であるか

人の眼から隠れて
こゝに
静かに熟れてゆく果実がある
おい、その果実の周囲は既に天に属してゐる

いつからか野に立つて

いつからか野に立つて
天の一角へ右の手を差ししのべ
それだと叫ぶのが
この私のならばしとなったが

いつであつたか野に立つて
それだと私が叫ぶやいなや
私の指先からさつと爽やかに
私の苦しみが蒸発して去つた
どんなに私は喜んだらう
しかしふと気がつく
この私が透明だ
私は正に消失しかかつてゐた

思はず地面に両手について
生きたい生きたいと
手を通して必死に土から吸ひあげたもので
私は私をみたくして行つた

その日から野に伏して
左の手はひたりと地から離さず
右の手で遠い空を指さすのが
私の祈りの姿となつた

Vepsa Talv

作曲 : Veljo Tormis

Balalaik, sä balalaik,
mite jo sä vaaged!
netsen balalaikan tagud
jokseezin mä taaven.

Ol ku minae melhiine mite
jo hän tsoomaine!
Tulob ehtan besedale
sizläs leibad kromaine.

Olsakoinen, olsakoine,
Hoikaine i baskaine.
Tulob, tulob besedale
Sidjärvinne Vaskaine.

Talankaine, minorkaine,
ani juged kandita.
Ostan reguden norastmu,
zavodin mä vedoda.

Minun melhiine vigastmu,
Selgaizoo se gurbaine,
Jaa gad kaznhed sto ku
Kanaa, sus ses üks jo hambaine.

Pajatamae pitkiid pajoid,
kaikiid metsiidmu gulad.
Navodiimae tsoimiid neitsiid,
kaikiid kuliidmu slavad.

Neitsukaine, neitsukaine,
ala mäne mehele!
A ku mäned mehele,
ka ota leibad kerdale.

Kuku, kuku kägoihud,
kuni kuzeladvaizes.
Voika, voika, neitsukaine,
kuni tatkoil kaglaizes.

Mustan hebon, mustan korjan,
mustan, mis me surguimae.
Mustan mutsuizen pertiizen,
mis me eriganziimae.

Balalaik, sä balalaik,
mite jo sä vaaged!
Netsen balalaikan tagud
jokseezin mä taaven .

12月、そしてクリスマス

指揮 : 松原千振

バラライカ、あなたはバラライカだ。
あなたはなんて純潔なのだろう。
そのバラライカのために、私は冬の間中
辺りを駆けなければならなかった。

かつて私には最愛の人がいた。
彼女はなんてかわいらしいのだろう。
結局、ポケットの中のパンの厚切れで
夕方には手工芸品となる。

藁の茎、私の藁の茎よ。
あまりにもか細く、美しい。
夕方にはシッド湖から離れたバスカで
手工芸品となる。

アコーディオンよ、私のハーモニカよ。
お前は運ぶには重い。
私は紐のついたそりを買うだろう。
そして、その辺りをそりで運び始める。

私の最愛の人には欠点がある。
彼女の背中にはこぶがあるし、
彼女の足はニワトリを連想させる。
彼女の口にはたった一本の歯しかない。

私たちは長い間歌を歌っている。
森中に大きく反響している。
私たちは村で一番高く、かわいらしい
おとめを愛す。

おとめよ、私のおとめよ。
結婚してくれるな！
でも、もしあなたが結婚するなら
あなたと一緒にパンをとる

鳴け、鳴け、カッコウよ
まだ梢に留まっている間は。
泣け、泣け、おとめよ、
まだ父親の傍らを離れない間は

私は馬を憶えている。私はそりを、
そしてそりに乗ったところを憶えている。
私はさよならと言った農場の中の
小さな家を憶えている

バラライカ、私のバラライカよ。
あなたはなんて白いのだろう！
そのバラライカのために
私は冬の間中駆けなければならなかった。

Hosianna

作曲 : Selim Palmgren

Gören portarna höga och dörrarna vida
och häng slingor av grönt över ringmuren,
din dotter Sion, statt upp,
att din Konung må rida,
som en ärones Konung må draga därin !
Läten harporna ljuda,
basunerna stöta och lägg kläden
och palmer för Konungens fot,
låt ditt folk strömma ut
att sin härskare möta, under glädjeoch gamman
gå sin Konung emot !
Bortom skyn är hans rike av vi och av honung,
bortom skyn är hans härskarors vapendån,
han är kärlekens kung han är frihetens Konung,
klinga högt, klinga högt:
Hosiannah, Davids son !

När det lider mot jul

作曲 : Ruben Liljefors

Det strålar en stjärna förunderligt blid,
i öster på himlen hon står.
Hon lyst över världens oro och strid
i ära tvätusende år.
När dagen blir mörk och när snön faller vit,
da skriker hon närmre, da kommer hon hit;
och då vet man att snart är det jul.
Och julen är härlig för stora och små,
är glädje och ljuvaste frid,
är klappar och julgran och ringdans också,
är lycka oandligen blid,
är ljus, allas ögon då stråla som bäst,
och stjärnorna tindra om mest;
och där ljuset är där är jul.

Psalmi 23

作曲 : Einojuhani Rautavaara

Herra on minun paimenenin
ei minulta mitään puutu.
Viherjällä niityllä
Hän antaa minun levätä
ja viepiminut vetten luo
vie virvoittavien vetten tykö.
Sieluni Hän virvoittaa
Hän johtaa minut oikealle tielle nimensä tähden
ja vaikka vaeltaisin kuoleman varjon mass
En pelkää mitään pahaa kun Sinä kuljet kanssani
Sinun vitsasi ja sauvasi ne lohduttavat minua.
Sinä valmistat minulle pöydän
vihollisteni nähden, Sinä voitelet pääni öljyllä,
minun maljani on ylitseuotavainen!
Hyvyys vain ja armoseuraa kaikkina elinpäiviniäni,
saan asua Herran huoneessa
iankaikkisesta, iankaikkiseen.

門を高く上げ扉を広く開け、そして城壁全体に
緑の輪の飾りをかけた。
あなたの娘のシオンは
馬に乗った王のために十分に従事した。
王が誇り高く門の中に入れるように！
ハーブの音が鳴り響く。
トロンボーンを吹き鳴らし、
王のために棕櫚(しゅろ)と
布でできた敷物をしいた。
民衆が王に会うために外へ向かう音がする。
喜びに沸き王の下へ歩いてく！
以前私たちがいた王国は空の彼方に
軍の武器の轟音は空の彼方に
彼は愛の王、彼は自由の王
鐘が鳴る、鐘が鳴る：
ホサンナ、ダヴィデの息子よ！

東の空遥か高く私たちの頭上で
星が素敵に優しく輝く
星は苦悩に満ち荒涼とした世界で
二千年近くも輝いている
日が落ちて雪が白く降り積もると
星が次から次へと夜を連れてくる
そして私たちは気がつくのだ もうじきクリスマスだど
そう クリスマスは大人にとっても子供にとっても素敵なもの
喜びや輝かしい平和、クリスマスプレゼントやクリスマスツリー
そして皆で輪になって踊ること
それらは永遠に優しい幸福である
光が皆の瞳を一段と輝かせ
星は空高くきらびやかに瞬く
それこそがクリスマス

主は羊飼いわたしには 何も欠けることがない
主は わたしを 青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴い
魂を 生き返らせてくださる
主は 御名にふさわしく
わたしを 正しい道に導かれる
死の陰の谷を行くときも
わたしは 災いを恐れない
あなたが わたしと共にいてくださる
あなたの鞭 あなたの杖それが わたしを力づける
わたしを苦しめる者を前にしても
あなたは わたしに食卓を整えてくださる
わたしの頭に 香油を注ぎ
わたしの杯を 溢れさせてくださる
命のある限り恵みと慈しみは いつもわたしに従う
主の家に わたしは帰る
生涯 そこにとどまるであろう